

第56回上映会

寿ドヤ街 生きる2

監督/編集 渡辺孝明

撮影 高橋英明 音楽 関口孝

1984年/日本/モノクロ/98分/DVD 上映

【作品解説】

1日の生活を1日契約の労働に賭ける人々。しかし、高度成長は年々減少の一途をたどる。少しでも収入の安定を求め、長期出張（飯場仕事）へ旅立っていく労働者も多い。そんな横浜・寿町の人々の姿を追った「寿ドヤ街 生きる」の続編。1983年の「浮浪者」殺傷事件の衝撃に揺れる寿町の人々が、事件のことを、もう一度見直そうと、自ら事件を再現した芝居で、この映画は始まり、“生きる”というテーマを追いながら、寿町の人々の人生を記録していく。

[日 時] 2019年10月22日 (火・祝)
[上映時間] (1回目) 11:30 (2回目) 14:30
[講 演] 13:10~14:10
「浮浪者殺傷事件の衝撃と今後の寿地区」
登壇者：渡辺孝明監督（本作品監督）

[会 場] かながわ労働プラザ (3F 多目的ホール)

映画『ニューヨーク公共図書館』を鑑賞して
(2017年 米国 3時間25分 フレデリック=ワイズマン監督)
運営委員 神谷 秀明

本好きになったのは、小学6年の担任だった平岡先生から松本清張の「点と線」や「巨人の磯」を紹介してもらったこと。中学2年の時に、叔父から紹介された吉村昭の「熊嵐」から本格的にはまっていき、中学3年から高校1年にかけては大河ドラマの影響もあって、山岡荘八の「徳川家康」(全26巻)を読破しました。一時は図書館の司書になりたいと思い、大学受験では今は筑波大学に統合された図書館情報大学なども検討したほどでした。しかし、司書はなかなか正規採用が少なく職業としては諦めました。が家には自分の本棚が4つぐらいと押し入れにも大量の本があり、床が抜けるのではと思うぐらいの分量でしたが、青年海外協力隊でコロンビアに行く際に1つにするよう親から言われ、大ナタを振るって処分。その当時住んでいた兵庫県宝塚市の隣の西宮市には、有料(1年間6千円)ですが、関西学院大学の図書館が一般利用できました。ここの売りはほぼ全面開架方式で古い図書なども含め、自分で直に蔵書に触れることができるのです。社会福祉など専門書も多く、大いに活用させて頂きました。ああ至福のひとつ時。

前置きが長くなりましたが、そんな私にとって課題の映画は楽しみでした。一言でいえば、さすがは

ニューヨークということでしょうか。本館、分館、専門館も含め92館を要し、市民ニーズに応えるために、様々な取り組み姿には圧巻です。人文学、社会科学、美術において約6000万点。それは従来の図書館のイメージを打ち破り、ネット環境の整備や就職活動のサポート、講演、演奏、ダンス教室など社会教育の総合デパート、百花繚乱の様相です。てっきり「ニューヨーク市立図書館」と思いきや「ニューヨーク公共図書館」で、公的資金と各種寄付からなる公益財団が運営しているのです。もともとカーネギーホールで有名なカーネギーが出資した図書館とのこと。職員の熱意もすごく情報格差を縮小する取り組みやホームレスの方々をどうするかなど白熱。個人的にはコロンビアのノーベル文学賞受賞者のガルシア=マルケスの読書会が住民で開かれ、様々な解釈や思いが語られているのが嬉しいシーンでした。

翻って日本こと横浜でいえば、18区全部に図書館があるとはいえ、ニューヨークと比較した場合、努力されていると思いますが、まだまだ魅力に欠けるように思えてなりません。国際文化都市を標榜するならカジノではなく、文化にお金をかけてほしいものです。

「寿町 フィールドワークに参加して」その1 運営委員 金子美佐緒

幼いころから横浜に住む私にとって、「ドヤ街・寿町」はあってあたりまえの街でした。日雇い労働者の街、その中に入っただけとはいけない街、一本道を間違っただけで、車が入ってしまったときには、子どもながら当たり前がいたらどうしようとドキドキしたものでした。その後就職した1983年当時は、中区役所の裏口に朝並んでいた人たち、街に多く居た浮浪者とすれ違うことが日常でした。

今回のフィールドワーク参加は、30年の時間を経て、いつのまにか自分の生活から遠のいてしま

い、考える事も無くなっていたことに無防備に直面したことでした。自分自身、横浜の古い建物や接收されていた歴史とおなじに、横浜の一部として、「日雇い労働者の街」を認識していることを発見しました。

寿町は老人の街になっていました。ケアハウスが目立ちました。閑散としていました。簡易宿泊所にはクーラーが設置されていました。人が溢れていて、殺気立った街ではなくなっていました。感想を聞かれて「さびしい感じがする」と他の参加者からみると変な感想を言うてしまいました。(続く)

2019年9月7日 第55回上映会 「1981 寿ドヤ街 生きる」 アンケート結果

来場者数：400名 アンケート回収数：60枚 回答率：15.0%

1 作品についての評価

● とても良かった	12枚	20.0%	● 良かった	35枚	58.3%
● あまり良くなかった	4枚	6.7%	● 良くなかった	2枚	3.3%
● 無印	7枚	11.7%			

〈感想〉

(とても良かった)

- 別の惑星の映像をみているようだった。すさまじいインパクト!
- 私は今年60才になります。40年前に日常的にあった事とは思えなかった。でも人は皆心の中に色々なものを持っていて、出してはいけないモノはかくして生きていると思う。かくすことが出来なかった人達がつみかさねて、寿町のようなところに集まるんだと思いました。
- 貴重な記録と思いました。監督の話と合わせて、さらに深みが増しました。

(良かった)

- 内容としては、重い内容でいろいろ考えさせられました。字幕スーパーがないところは、ほとんど聞きとれなかった。
- 音が時々聞きとりにくかった。残念。良い映画は人々になんらの影響を与えます。ありがとうございました。
- 字幕は全編にほしかったです。本当に何を喋っているのか全く分からない人がいたので(音響の問題だと思います)
- 人々の顔面のアップば不明瞭ながら滔々と語り続けるおじちゃん、おばちゃんの顔面の迫力が素晴らしかった。録音技術の問題、おじちゃん達の発音の問題、色々原因はあるかもですが、途中何を言っているのか殆んど分からない箇所があって、前衛アートの様でした。多分すごく面白い事を話していたと思うので、字幕付きシーンを増やして頂きたいです。
- 何を言ってるのか良く聞きとれない所もあり

ましたが、この映画は意味深い映画だと思いました。

- 声が聞きとれず、字幕は見えづらいものもあり、情報に不十分だったように思う。記録がいいのでもったいなく感じます。資料(文字起こしたテキストなど)あるとよいかと。また、会場を広く使いすぎだと感じました。(広すぎる?)
- 発言が聞き取りにくかった。
- 全部に字幕をつけて欲しい

(あまり良くなかった)

- 期待しすぎたのかも。。言葉の不明瞭なのも残念であった。
- 言葉が聞きづらかった。
- 言葉が聞きとれず理解出来ない部分が多かった。
- 寿町については”ウワサ”だけの無知ではあります。しかし、若い頃、フリーター(日雇労働)したことが、今回の「ドヤ街」を観る動機と為りました。内容を知るにつれ、祖父がアル中で線路に寝る習癖が有り、小5の私がおんぶして連れて帰る、昔々の恥部を魅せられている様な錯覚し、極めて個人的な活動写真であると思いました。。

(良くなかった)

- 音声不良、テーマがわからない、画像不良、暗いのみでここから得た物が少ない。意気消沈!!

(その他)

- 字幕がほしかった。声がわれる。
- 声が聞き取れなかった。
- どちらとも言えません
- ことばが聞き取れませんでした。客席も前の人の頭で見えませんでした。字幕は横(画面の)に表示したほうがよろしいかと。
- 音声がわるいのと何を1人ずつ語る意味不明でした。電動のこぎりの事故でもあるの?ハラハラしたし高いところから落下の事故などどう

対処したのか現実性が全く撮られていなくて「ドキュメンタリー」の意味がないように思う。素人のホームビデオの方がよほど物語性も感動もあるこの映画の意図に「?」を感じました。がっかりでした。

● 興味深い内容で、映像の迫力はあったのですが、音響?が悪いのか、話している内容がほとんど聞き取れませんでした。(それは渡辺氏のお話も同じなのですが。。。)。字幕がほしかったです。

2 講演についての評価

- | | | | | | |
|-------------|-----|-------|----------|-----|-------|
| ● とても良かった | 20枚 | 33.3% | ● 良かった | 14枚 | 23.3% |
| ● あまり良くなかった | 5枚 | 8.3% | ● 良くなかった | 1枚 | 1.7% |
| ● 無印 | 20枚 | 33.3% | | | |

〈感想〉

(とても良かった)

- とても優しい眼差しのある人だと思った。心に響く人生の話が聞けた。
- 監督の気持ちが伝わってきて良い講演でした。
- 進行の人(聞き手)がいてもよかったと思います。何故私が寿町に惹かれるのかを監督が言葉にならずに尽くす様を見て、共感しました。

(良かった)

- ドキュメントとして観ました。
- 言葉にしてしまう事はとてもむずかしいと感じました。でも言葉にしなければ伝わらない事もあるし、でも御自分の心の闇のようなものが伝わる何かを感じました。

(あまり良くなかった)

- 言葉が聞き取れなかった
- 聞き取りにくかった
- 起承転結な”オチ”を期待した!?
- 話があちらこちらとぶので付いて行くのが難しかった。真面目なお人柄は伝わって来ました

が、次回はテーマを決めてインタビュー形式にしていかがでしょうか。

(良くなかった)

● 話の内容は良いのに話し方が悪い。一度講演を撮影したのを自分で見てください。見られたもんじゃないはず。およそ人前で喋る、語るスキルに達していません。単純に話が下手すぎる平板。出たところ勝負で何も考えてないなら人前で話そうとなんてしないでください。観客をバカにしないでください。※質疑応答だけでもよかったです。

(その他)

- 間にあわなかったです。興味深い内容で、映像の迫力はあったのですが、音響?が悪いのか、話している内容がほとんど聞き取れませんでした。(それは渡辺氏のお話も同じなのですが。。。)。字幕がほしかったです。
- 時間がなく聞けませんでした。すみません。

…… アンケートに、ご協力ありがとうございました ……

〈横浜キネマ倶楽部、これまでの上映作品〉
2005.9月～2019年10月 上映会 56回・特別上映会 5回

- 第1回 美しい夏キリシマ
- 第2回 パッチギ!
- 第3回 カーテンコール
- 第4回 二人日和
- 第5回 ゆれる
- 第6回 トリノ、24時からの恋人たち
- 第7回 長い散歩
- 第8回 天空の草原のナンサ
- 第9回 イノセント・ボイス—12歳の戦場—
- 第10回 モーターサイクル・ダイアリーズ
- 第11回 恋するトマト
- 第12回 シッコ
- 第13回 歡喜の歌
- 第14回 赤い風船・白い馬
- 第15回 三本木農業高校、馬術部
- 第16回 ラストゲーム～最後の早慶戦
- 第17回 マリア・カラスの真実
- 第18回 ディア・ドクター
- 第19回 扉をたたく人
- 第20回 縞模様のパジャマの少年
- 第21回 春との旅
- 第22回 小さな村の小さなダンサー
- 第23回 冬の小鳥
- 第24回 ホームカミング
- 特別上映会第1回 ミツバチの羽音と地球の回転
- 第25回 デザートフラワー
- 第26回 ハーモニー心をつなぐ歌
- 特別上映会第2回 ドーバー崖の蜘蛛たちの挑戦
- 第27回 エンディングノート
- 第28回 旅芸人の記録
- 第29回 トガニ

- 第30回 月世界旅行・
メリエスの素晴らしい映画魔術
- 第31回 かぞくのくに
- 第32回 警察日記
- 特別上映会第3回 名もなく貧しく美しく
- 第33回 よみがえりのレシピ
- 第34回 きっと、うまくいく
- 第35回 日本の悲劇
- 第36回 ペコロスの母に会いに行く
- 特別上映会第4回 息子
- 第37回 ハンナ・アーレント
- 第38回 標的の村
- 第39回 救いたい
- 第40回 野のなななのか
- 第41回 ぼくたちの家族
- 第42回 NO
- 第43回 春よこい
- 第44回 野火
- 特別上映会第5回 手のひらを太陽に
- 第45回 袴田巖 夢の間の世の中
- 第46回 父を探して
- 第47回 お盆の弟
- 第48回 祖谷物語-おくのひと-
- 第49回 東京ウィンドオーケストラ
- 第50回 ふるさと
- 第51回 どっこい! 人間節 寿・自由労働の街
- 第52回 孤独の人
- 第53回 喜劇大風呂敷
- 第54回 神宮希林 私の神様
- 第55回 寿ドヤ街 生きる
- 第56回 寿ドヤ街 生きる2 (本会)

☆☆☆ 2020年上映会の予定 ☆☆☆

3月7日(土) 『十階のモスキート』 内田裕也さん追悼上映
 会場: 横浜南公会堂

6月28日(日) 『約束 名張葡萄酒事件 死刑囚の生涯』 仲代達也・樹木希林
 会場: 社会福祉センターホール(桜木町)

次回第57回上映会お知らせ

「ヨコハマアートサイト2019」に応募し、採択されました！

『寿ドヤ街 生きる』『寿ドヤ街 生きる2』『日曜日の子供たち』

「日曜日の子供たち」

2019年11月4日(月・祝)

上映時間 ① 11:30 ~

② 14:30

講演: 13:20 ~ 14:20

登壇者: 堀田泰寛監督

演題: レンスを通し見詰めた子供たち

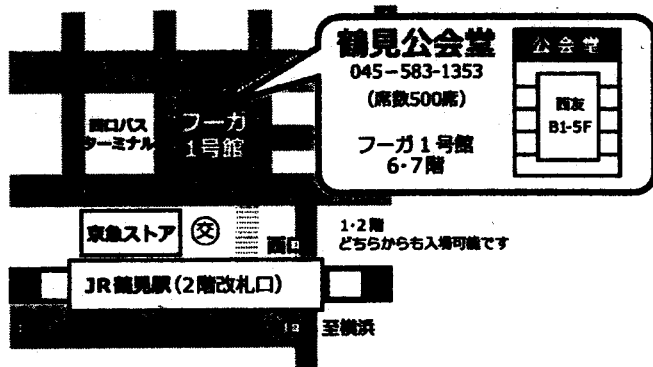
〔入場料〕

前売 1,000円 当日 1,300円

障がい者 1,000円 (介助者1名無料)

〔会場〕 横浜市鶴見公会堂 (西友6階)

(JR京浜東北線鶴見駅下車徒歩1分/京急鶴見駅下車徒歩5分)



・・・「ヨコハマアートサイト」とは・・・

地域課題にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援(助成広報協力等)する事業です。

2019年、アートで地域を、29件の文化芸術活動が決定!

横浜に映画ファンの思いが反映される映画館を作ろう!

横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、2005年5月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。金の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一步でも近づきたい、それと同時に良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年4回の上映会を行っています。

横浜キネマ倶楽部会報

発行: 横浜キネマ倶楽部



〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56
横浜市民活動支援センター No.85
横浜キネマ倶楽部

TEL: 080-8118-8502 (10時~18時)

Eメール: yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp

HPアドレス: <http://ykc.jimdo.com>